

MOVE THE WORLD FORWARD

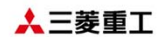
MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP



2018年度第2四半期 決算説明資料

2018年10月31日
三菱重工業株式会社

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



CFOの小口です。2018年度第2四半期決算の概要について説明します。

目次



I. 2018年度第2四半期

決算実績

・決算実績ハイライト	3
・連結経営成績サマリー	4
・定常収益	5
・セグメント別内訳	6
・連結財政状態	7
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	8

セグメント情報

・受注高・受注残高	9
・売上収益	10
・事業利益	11

II. 2018年度業績見通し

・業績見通しサマリー	13
・定常収益	14
・セグメント別内訳	15

III. 三菱航空機の資本増強 16

IV. 補足資料 18-23

当社グループは、2018年度より国際会計基準(IFRS)を適用しています。
このため、2017年度第2四半期および2017年度の財務数値についても、
IFRSに準拠して表示しています。

I . 2018年度第2四半期決算実績

第2四半期決算実績 ハイライト



- 通期見通しに対し順調に進捗
→P4(実績サマリー)、P13(業績見通し)
- MRJ開発投資を除く定常収益は堅調に推移
(事業利益1,040億円(利益率5.6%)／四半期利益724億円(同3.9%))
→P5(定常収益)
- 受注高はインダストリー＆社会基盤が堅調(前年同期比+1,633億円)
パワーの減少(同△1,590億円)をカバー
→P6(実績セグメント別内訳)、P9(セグメント別受注高・受注残高)
- 事業利益はパワーおよびインダストリー＆社会基盤が増加
(パワー:前年同期比+331億円／インダストリー＆社会基盤:同+58億円)
航空・防衛・宇宙の減益(同△20億円)をカバー
→P6(実績セグメント別内訳)、P11(セグメント別事業利益)
- フリーキャッシュフローが改善(前年同期比+1,076億円)、
有利子負債(8,974億円)は第2四半期末としては過去最低水準
フリーキャッシュフロー通期見通しを従来の500億円から1,000億円に見直し
→P7(連結財政状態)、P8(主要財務指標／キャッシュ・フロー)
- 中間配当を前年度比5円増配、年間では期末配当を含め10円増配予定
→P13(業績見通し)

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

今回の決算のハイライトはご覧のとおりです。

第2四半期の状況は、通期見通しに対して堅調に推移しています。

また、MRJ開発投資を除いた定常収益力についても同様に、堅調に推移しています。

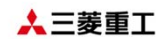
受注高では、インダストリー＆社会基盤セグメントの増加がパワーセグメントの減少をカバーし、全体としてはほぼ前年同期並みとなりました。

事業利益では、航空・防衛・宇宙セグメントが民間航空機Tier1事業においてプロダクトミックスが変化したことなどにより若干の減益となりましたが、全体ではパワーセグメントおよびインダストリー＆社会基盤セグメントの増益によりカバーしました。

フリーキャッシュフローは、例年、第2四半期から第3四半期にかけて底を迎える傾向がありますが、当年度はそのマイナス幅が小さく、前年同期比では1,076億円改善しています。これはキャッシュフロー経営が定着した結果と考えており、フリーキャッシュフローの通期見通しを従来の500億円から1,000億円に上方修正しました。

こうした状況を踏まえ、中間配当については前年度(株式併合後換算)より1株あたり5円増配の65円とすることを、本日の取締役会で決定しました。

第2四半期決算実績 連結経営成績サマリー



(単位: 億円)

	2017年度2Q (利益率)	2018年度2Q (利益率)	増減 (増減率)
受注高	15,941	15,618	△ 323 (△2.0%)
売上収益	18,280	18,720	+440 (+2.4%)
事業利益	(1.1%) 194	(3.0%) 567	+373 (+191.7%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	(△0.2%) △29	(1.4%) 254	+284 -
EBITDA	(5.5%) 1,011	(6.4%) 1,201	+189 (+18.8%)
フリーCF	△1,826	△750	+1,076 -

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

具体的な経営成績について説明します。

受注高は、前年同期より323億円減少し、1兆5,618億円となりました。

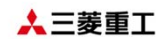
売上収益は、前年同期より440億円増加し、1兆8,720億円となりました。

事業利益は、前年同期より373億円増加し、567億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期より284億円増加し、254億円となりました。

EBITDAは1,201億円、フリーキャッシュフローは△750億円となり、いずれも前年同期を上回りました。

第2四半期決算実績 定常収益



(単位: 億円)

2018年度2Q	定常収益 (利益率)	MRJ投資	合計 (利益率)
受注高	15,618	—	15,618
売上収益	18,720	—	18,720
事業利益	(5.6%) 1,040	△472	(3.0%) 567
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	(3.9%) 724	△469	(1.4%) 254
EBITDA	(8.9%) 1,673	△472	(6.4%) 1,201
フリーCF	△198	△551	△750

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

MRJ開発投資を除いた定常収益においては、事業利益は1,040億円、四半期利益は724億円、EBITDAは1,673億円、フリーキャッシュフローは△198億円でした。

定常収益力の面でも順調に推移しているものと評価しています。

第2四半期決算実績 連結経営成績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	'17年度 2Q	'18年度 2Q	増減	'17年度 2Q	'18年度 2Q	増減	'17年度 2Q	'18年度 2Q	増減
パワー	5,845	4,255	△ 1,590	6,237	6,808	+571	142	473	+331
インダストリー & 社会基盤	7,625	9,258	+1,633	8,710	8,982	+271	245	303	+58
航空・防衛・宇宙	2,463	2,255	△ 207	3,363	3,074	△ 288	△ 201	△ 221	△ 20
その他	604	356	△ 248	606	342	△ 263	34	29	△ 4
消去または共通	△ 597	△ 508	+88	△ 638	△ 488	+150	△ 26	△ 18	+8
合計	15,941	15,618	△ 323	18,280	18,720	+440	194	567	+373

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

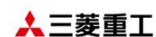
セグメント別の状況について説明します。

受注高について、パワーセグメントでは例年下半期に大型案件が集中する傾向があり、当期も下半期の受注計上に向け個々の商談が進捗していますが、第2四半期時点では前年同期を1,590億円下回る4,255億円となりました。一方、インダストリー & 社会基盤セグメントは前年同期を1,633億円上回る9,258億円となりました。製鉄機械の市場が回復してきたこと、また量産品が依然好調に推移していることなどが主な要因です。

売上収益について、航空・防衛・宇宙セグメントが民間航空機Tier1事業における売上減少等の影響で前年同期を下回りましたが、パワーセグメント、インダストリー & 社会基盤セグメントについてはいずれも前年同期を上回りました。

事業利益について、パワーセグメントでは主要事業のうちGTCC、スチームパワー、原子力、コンプレッサはいずれも前年同期比で改善していますが、航空エンジンはTrent1000の対策費用を引き当てた影響により減益となっています。当該引当を含めても、セグメント全体では前年同期を331億円上回る473億円となりました。インダストリー & 社会基盤セグメントは、前年同期を58億円上回る303億円となりました。航空・防衛・宇宙セグメントは、民間航空機Tier1事業において777の売上が減少したこと、防衛関連において例年売上が下半期に偏る傾向が当年度はより大きくなっていることなどから、前年同期を20億円下回る△221億円となりました。

第2四半期決算実績 連結財政状態



(単位:億円)				
	‘17年度末	‘18年度2Q末	対前年度末 増減	
売上債権(営業債権、契約資産)	15,046	14,203	△842	
棚卸資産	7,485	8,215	+729	
その他流動資産	※ 9,877	※ 10,005	+128	※ 南アフリカプロジェクトに係る資産を含む ‘17年度末 : 4,459億円 ‘18年度2Q末 : 4,975億円 (‘18年度1Q末 : 5,067億円)
固定資産	9,977	9,929	△48	
投資等	10,100	10,176	+76	
資産合計	52,487	52,530	+42	
営業債務	8,011	7,408	△602	
契約負債	9,146	9,085	△61	
その他	10,258	9,621	△637	借入金 △136 コマーシャルペーパー +1,280 社債 △300
有利子負債	8,131	8,974	+843	
資本	16,938	17,440	+501	配当 △201 四半期利益 +254 その他の包括利益 +280 他 (その他有価証券評価差額金等)
(うち親会社の所有者に帰属する持分)	(13,955)	(14,363)	(+407)	
負債・資本合計	52,487	52,530	+42	

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

7

バランスシートの状況について説明します。

バランスシートの効率化が次年度以降の利益の増加につながるという認識のもと、積極的に効率化に取り組んでいます。例年、第2四半期末時点では、事業サイクルの長い当社の場合、生産の進捗に伴い棚卸資産が増えることでバランスシートが拡大する傾向にありますが、当年度は前年度末との比較において、あまり大きく拡大していません。棚卸資産がこの時点で増加しているのは従来同様の傾向ですが、一方で売上債権の現金化による減少が顕著に表れています。

負債および資本の部においては、予想以上に好調なキャッシュフローを受け、有利子負債の増加が小幅にとどまっています。前年度第2四半期末時点では1兆円を超える水準でしたが、当年度第2四半期末は9,000億円を下回っています。この傾向は年間を通じて維持できるものと考えており、有利子負債の増加分は超短期のコマーシャルペーパーを中心に対応しています。

第2四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



主要財務指標

	‘17年度末	‘18年度 2Q末	対前年度末 増減	‘18年度 見通し
自己資本比率	26.6%	27.3%	+0.7pt	－
有利子負債残高 (単位:億円)	8,131	8,974	+843	7,700
D/Eレシオ	0.48	0.51	+0.03	－

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

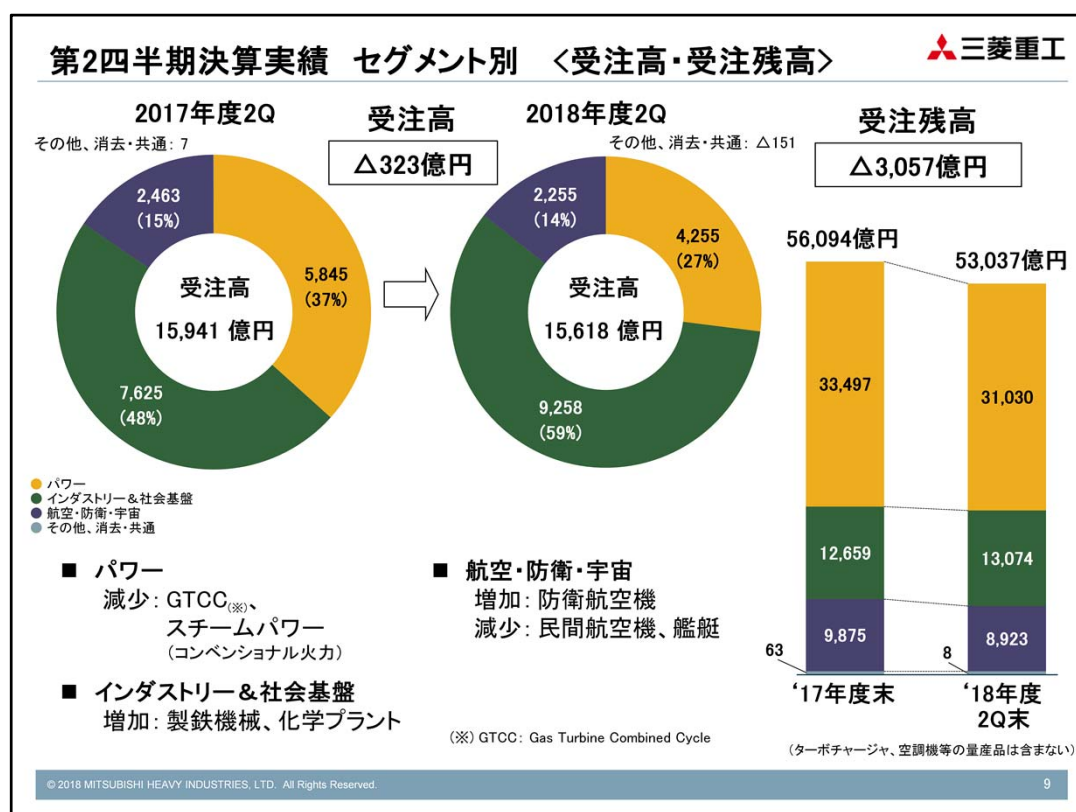
	‘17年度 2Q	‘18年度 2Q	増減	‘18年度 見通し
営業CF	△ 631	△ 42	+588	－
投資CF	△ 1,195	△ 707	+487	－
フリーCF	△ 1,826	△ 750	+1,076	1,000

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

主要財務指標について説明します。

自己資本比率は27.3%となりました。IFRSへの移行にともない期首にMRJ関連資産を圧縮した影響から3割を下回る水準となっていますが、財政状態は改善傾向にあり、自己資本が大きく傷んでいる状況とは考えていません。有利子負債残高、D/Eレシオについてはご覧のとおりです。いずれを見ても、財務の健全性は依然十分に保たれているものと評価しています。

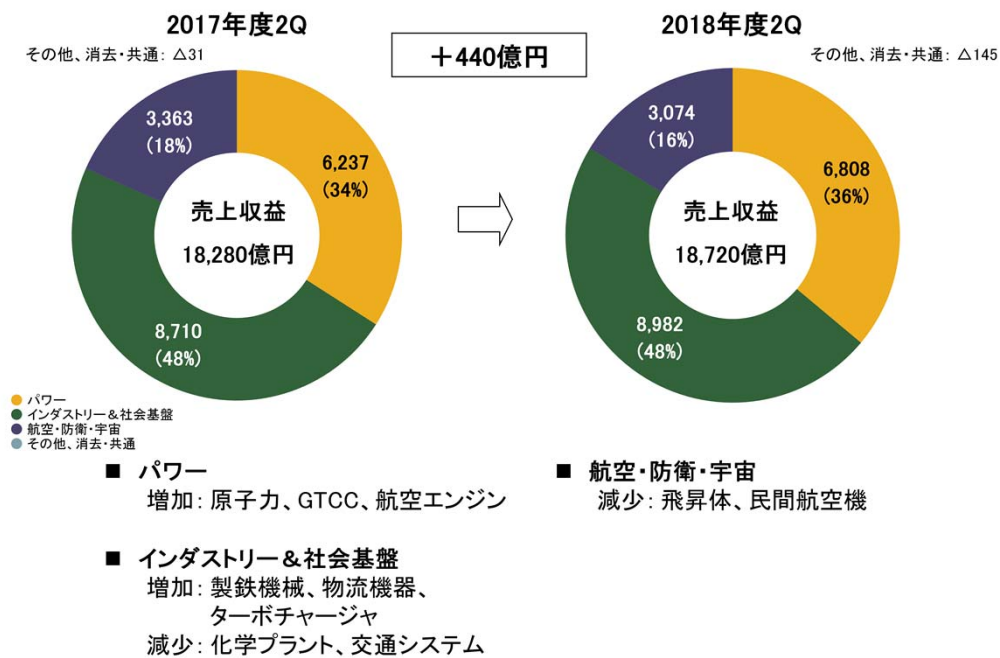


セグメント別の情報について説明します。

受注高については、オレンジ色で示したパワーセグメントが低調に推移していますが、下半期に大型案件が控えていることから、年間ではある程度回復するものと見ています。一方、これをカバーしているのが緑色で示したインダストリー&社会基盤セグメントです。製鉄機械や量産品が好調のため、前年同期よりも大きく増加しています。

受注残高については、売上収益が増加する一方で受注が減少しているパワーセグメントを中心に、減少しています。

第2四半期決算実績 セグメント別 <売上収益>

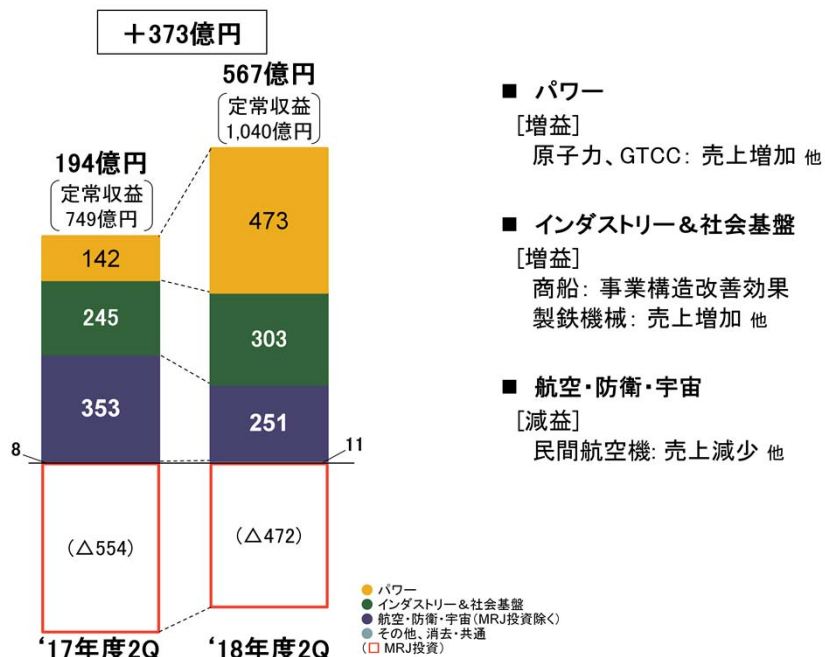
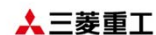


© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

10

売上収益についてはご覧のとおりです。

第2四半期決算実績 セグメント別 <事業利益>



© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

11

事業利益については、P6で説明しましたとおり、パワーセグメントにおいて航空エンジン関連の引当を行った一方、原子力、GTCC等が売上増加を受け増益となっており、セグメント全体では前年同期を大きく上回りました。インダストリー&社会基盤セグメントも、製鉄機械の売上増加による改善などがあったほか、中量産品も依然堅調な状況が続いています。航空・防衛・宇宙セグメントは、民間航空機Tier1事業におけるプロダクトミックスの変化等により売上が減少したことにともない減益となりました。

Ⅱ．2018年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しの上に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2018年度業績見通し サマリー



(単位: 億円)

	2017年度実績 (利益率)	2018年度		対前年度増減 (増減率)	
		今回見通し (利益率)	前回見通し (2018年8月3日)		
受 注 高	38,687	41,000	41,000	+2,312	(+6.0%)
売上収益	40,856	42,000	42,000	+1,143	(+2.8%)
事業利益	(1.4%) 581	(3.8%) 1,600	1,600	+1,018	(+175.0%)
親会社の所有者に帰属する 当期利益	△73	(1.9%) 800	800	+873	-
R O E	△0.5%	6%	6%	-	
EBITDA	(5.7%) 2,319	(7.6%) 3,200	3,200	+880	(+38.0%)
フリーCF	1,675	1,000	500	△675	-
配当 (株式併合後換算、 1株あたり)	(※) 120円 (中間60円/期末60円)	130円 (中間65円/期末65円)		【未確定外貨】 13億ドル 4億ユーロ 【前提為替レート】 1ドル = 110円 1ユーロ = 130円	

第2四半期のFCF実績が想定を上回ったことから、FCFのみ前回公表値を見直し

(※) 当社は、2017年10月1日付で株式併合(10株→1株)を実施しました。2017年度の中間配当は1株あたり6円ですが、本資料上は配当予想との比較のため、当該株式併合実施後の配当金に換算して記載しています。

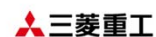
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

2018年度の業績見通しについて説明します。

ここまで説明してきましたように、第2四半期まではほぼ計画どおり、順調に推移しているものと評価していますので、受注高、売上収益、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益等の各項目は、前回公表値を据え置いています。ただし、P3で触れましたとおり、フリーキャッシュフローについては第2四半期の段階で計画に対し改善が見られることから、年間の見通しにおいても500億円程度の改善を見込み、1,000億円に上方修正しています。

2018年度業績見通し 定常収益



(単位: 億円)

2018年度見通し	定常収益		MRJ投資	合計
	今回見通し (利益率)	前回見通し (2018年8月3日)		
受注高	41,000	41,000	—	41,000
売上収益	42,000	42,000	—	42,000
事業利益	(6.0%) 2,500	2,500	△900	(3.8%) 1,600
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(4.0%) 1,700	1,700	△900	(1.9%) 800
ROE	12%	12%	—	6%
EBITDA	(9.8%) 4,100	4,100	△900	(7.6%) 3,200
フリーCF	2,200	1,700	△1,200	1,000

- 定常収益におけるTOP_(※1)比… 1 : 1.2 : 0.7
(売上…4.2兆円、総資産…5.1兆円、時価総額…2.8兆円_(※2))

(※1) TOP: Triple One Proportion (売上: 総資産: 時価総額=1:1:1とする経営目標)

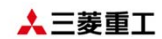
(※2) 時価総額は親会社の所有者に帰属する当期利益の16.7倍(資本コスト: 6%)として算定

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

14

MRJ投資を除いた定常収益の見通しはご覧のとおりです。

2018年度業績見通し セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売上収益			事業利益		
	'17年度 実績	'18年度 見通し	対前年度 増減	'17年度 実績	'18年度 見通し	対前年度 増減	'17年度 実績	'18年度 見通し	対前年度 増減
パワー	14,375	15,000	+ 624	14,824	16,000	+ 1,175	849	1,350	+ 500
インダストリー& 社会基盤	17,113	19,500	+ 2,386	18,900	19,000	+ 99	410	800	+ 389
航空・防衛・宇宙	7,146	6,500	△ 646	7,183	7,000	△ 183	△ 635	△ 450	+ 185
その他	1,135	1,000	△ 135	1,207	1,200	△ 7	34	50	+ 15
消去または共通	△ 1,083	△ 1,000	+ 83	△ 1,259	△ 1,200	+ 59	△ 77	△ 150	△ 72
合計	38,687	41,000	+ 2,312	40,856	42,000	+ 1,143	581	1,600	+ 1,018

セグメント別内訳は前回公表値(2018年8月3日)から変更なし

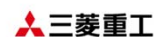
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

15

業績見通しのセグメント別の内訳はご覧のとおりです。

Ⅲ. 三菱航空機の資本増強

三菱航空機の資本増強



- 既存株主のご理解のもと、三菱航空機に対し当社が増資を全額引き受けるとともに債権放棄を行い、三菱航空機の債務超過の解消ならびにMRJ開発資金を確保する
- 資本増強により、三菱重工の持分比率は64.0%→86.7%に増加

	増強前		増強後
資本金・資本準備金	1,000億円	増資: 1,700億円 →	2,700億円
累積損失(※)	約△2,100億円	債権放棄: 500億円 →	約△1,600億円
純資産(※)	約△1,100億円	上記計: +2,200億円 →	約1,100億円

(※) 2018年3月末を基準に計算

- 増資により調達する資金はMRJ90の研究開発や事業化準備に活用
- MRJを一つの柱とし、民間航空機事業を三菱重工グループの次の主力事業に成長させる
(新規事業育成のための投資として、三菱重工グループの資金循環の中で対応)

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

17

最後に、本日公表しました三菱航空機の資本増強について説明します。

MRJの開発などを行う三菱航空機は、開発期間が延びたことや投資額の増加などにより、前年度末時点で債務超過の状態となっています。一方、MRJ事業について抜本的な改善を図ってきた結果、2020年の初号機納入という現在のスケジュールの達成確度は高まってきたものと考えています。

かかる状況を踏まえ、MRJ事業化までの三菱航空機における財政面の課題を解決すべく、今般、既存株主の皆様のご理解を得て、三菱重工による増資引受および一部債権放棄による資本増強プランを設定しました。この結果、三菱航空機の当社の持ち分比率は従来の64%から86.7%に増加します。

財政面の課題を解決した上で、技術面でも開発を着実に進めることで、2020年度以降の新たな体制の下での事業化にある程度見通しが立ってきたものと考えています。

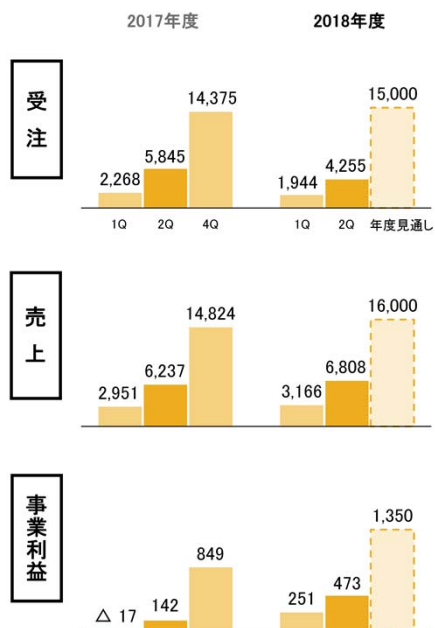
以上で、2018年度第2四半期決算の説明を終わります。

IV. 補足資料

補足資料① 第2四半期決算実績 <パワー>



(億円、各期の数値は累計)



受注：対前年同期△1,590億円の減少

減少…GTCC※、スチームパワー(コンベンショナル火力)

(※) GTCC: Gas Turbine Combined Cycle

【ガスタービン受注台数】

2017年度2Q：5台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	2	-	2	4
中小型	-	-	-	1	1
合計	0	2	0	3	5

2018年度2Q：4台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	-	-	-	0
中小型	2	2	-	-	4
合計	2	2	0	0	4

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
2017年度2Q末	43	13	56
2017年度末	38	6	44
2018年度2Q末	33	8	41

売上：対前年同期+571億円の増収

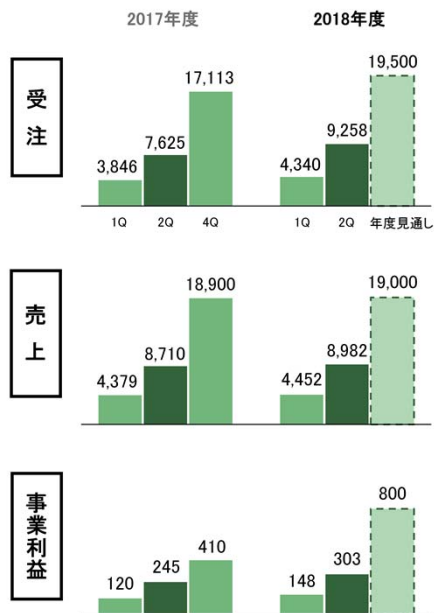
増加…原子力、GTCC、航空エンジン

損益：対前年同期+331億円の増益

増益…原子力、GTCC:売上増加 他

補足資料① 第2四半期決算実績 <インダストリー＆社会基盤> 三菱重工

(億円、各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期+1,633億円の増加
増加…製鉄機械、化学プラント

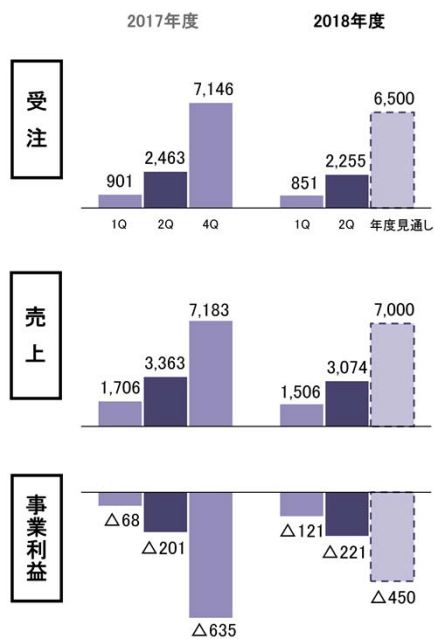
売上 : 対前年同期+271億円の増収
増加…製鉄機械、物流機器、ターボチャージャ
減少…化学プラント、交通システム

損益 : 対前年同期+58億円の増益
増益…商船: 事業構造改善効果
製鉄機械: 売上増加 他

補足資料① 第2四半期決算実績 <航空・防衛・宇宙>



(億円、各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期△207億円の減少

増加…防衛航空機
減少…民間航空機、艦艇

【MRJ 累計受注機数】(2018年10月31日現在)
387機 (確定 213機、オプションおよび購入権 174機)

売上 : 対前年同期△288億円の減収

減少…飛昇体、民間航空機

【B777/B777X 引渡機数】
'17年度(実績) : 58機 (1Q:17機、2Q:15機、3Q:16機、4Q:10機)
'18年度(見通し) : 48機 (1Q:11機、2Q:11機、3~4Q:計26機[予定])

【B787 引渡機数】
'17年度(実績) : 141機 (1Q:36機、2Q:36機、3Q:33機、4Q:36機)
'18年度(見通し) : 148機 (1Q:37機、2Q:36機、3Q~4Q:75機[予定])

損益 : 対前年同期△20億円の減益

減益…民間航空機: 売上減少 他

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位: 億円)

	'17年度 2Q	'18年度 2Q	'18年度 見通し
研究開発費	616	627	1,800
減価償却費	816	633	1,600
設備投資	712	539	1,600

2. 販売費及び一般管理費

(単位: 億円)

	'17年度 2Q	'18年度 2Q
販管費	2,615	2,614

3. 為替レート(売上計上平均レート)

	'17年度 2Q	'18年度 2Q
USドル(円/USドル)	111.3	109.6
ユーロ(円/ユーロ)	125.7	129.3

4. 海外地域別売上収益

(単位:億円)

	'17年度2Q	'18年度2Q
アジア	3,124 (17%)	3,461 (19%)
北米	3,290 (18%)	3,085 (16%)
欧州	1,833 (10%)	2,046 (11%)
中南米	712 (4%)	676 (4%)
中東	712 (4%)	616 (3%)
オセアニア	141 (1%)	113 (1%)
アフリカ	338 (2%)	406 (2%)
合計	10,152 (56%)	10,406 (56%)

※ ()内は構成比

5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'17年度2Q	'18年度2Q
日本	売上収益	15,278	14,347
	事業利益	49	352
北米	売上収益	2,157	2,163
	事業利益	46	44
アジア	売上収益	1,380	2,083
	事業利益	151	162
欧州	売上収益	1,714	1,860
	事業利益	△ 54	4
その他	売上収益	515	236
	事業利益	2	4
消去または共通	売上収益	△ 2,766	△ 1,972
	事業利益	-	-
合計	売上収益	18,280	18,720
	事業利益	194	567

MOVE THE WORLD FORWARD

**mitsubishi
heavy
industries
group**

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.